

メルマガ7月（57号）

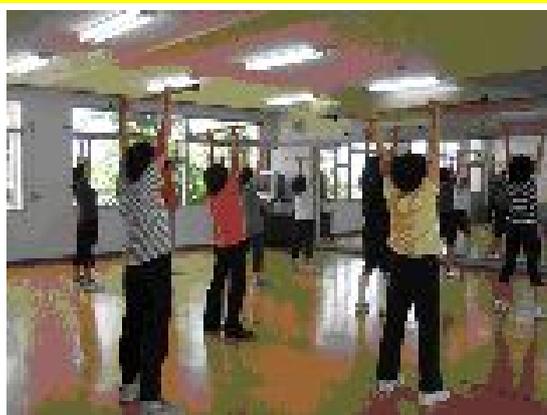
＜特集＞ クラブをわかりやすく伝える～住民との共感プロセス
基本的な方法で、地道に「存在」を伝える①

信頼の厚いメディア「回覧板」の活用 ～住民に毎月、クラブ情報が行き渡る方法と効果～ （高橋スポーツクラブ・愛知県豊田市）

1. クラブは「地域スポーツの応援団」

高橋スポーツクラブは、「スポーツを通じ、健康・交流・感動あふれる高橋・ひとづくり」を目標に中高年向けの教室（リズム体操、太極拳、ストレッチ体操、いきいき健康体操など）を毎日開催し、クラブハウスへ通えない高齢者の会員向けに地域への出張教室も行っています。

また、子どもの健全育成にも力を入れており、中学校の部活動の一部はクラブの地域指導者と一緒に活動するなど、幅広い活動を行っています。



いきいき健康教室の様子

2. クラブ広報誌を回覧板に！

クラブでは設立当初から、広報誌「高橋スポーツクラブニュース」を毎月15自治区回覧板に入れてもらい、住民にクラブの存在と活動内容などをPRしています。

回覧手順としては、クラブ事務局が各自治区長（15自治区）に渡し、そこから組長（710組）を通して各組に回覧されています。

このように自治会加入の全世帯にクラブの情報が行き渡るため、地域内におけるクラブの認知度は非常に高いものとなっています。たくさんの人々を経由して回覧されるので時間はかかりますが、回覧板に情報を提供しているクラブということで、クラブに対する信頼も厚くなっています。

3. 続けることの効果

クラブ設立から今年で8年目となりますが、毎月欠かさず広報誌を作成、発行し続けることは容易ではありません。しかし、継続することによって、クラブの認知度を高めるとともに、よりよい紙面づくりにも効果があります。

どのようなレイアウトが見やすいか、クラブの発信したい情報を重要度によって紙面配置することなど、作成・発行するごとに改良を重ね、納得いくものができるようになってきました。こうした結果、現在の「高橋スポーツクラブニュース」では基本的に、【表紙：募集中の教室・イベント告知、中面：実施したイベント・教室紹介、裏表紙：各事業の今後の日程表】を配置して、効果的な情報提供をしています。

メルマガ7月 (57号)

<特集> クラブをわかりやすく伝える～住民との共感プロセス 基本的な方法で、地道に「存在」を伝える①



表紙 (A3二つ折り)



裏表紙



中面

4. 自主事業 参加者は、年間延べ15,000人!

クラブ広報誌は回覧板だけでなく、新聞の折り込みチラシにも入れています。販売店の好意により、他のチラシを「高橋スポーツクラブニュース」には喜んで折り込んでもらうので、必ずクラブニュースが目につくことになり、非常に高い効果が得られています。こうした協力を得られるのもクラブが地域での信頼を得ている証だと言えます。このような活動を続けてきたことで、現在では約15,000人(延べ人数)の方々が自主事業に参加しています。クラブでは今後もさまざまな活動を通じて、「地域のスポーツ応援団」としての役割を果たしていきたいと考えています。



クラブニュースで他のチラシをはさんで折り込んでもらっています

(権田 瞳 愛知県クラブ育成アドバイザー)

メルマガ7月（57号）

<特集> クラブをわかりやすく伝える～住民との共感プロセス
基本的な方法で、地道に「存在」を伝える①

【高橋スポーツクラブ プロフィール】

1. 設立
設立年：平成15年7月
豊田市が総合型クラブ立ち上げの意向を示した年に、地区コミュニティ会議で設立を決定。活動の主役は地区住民との認識に立ち、「地域スポーツの応援団」として設立。市のモデルクラブ。
特徴：自動車産業が中心の工業都市
2. 地域
人口：高橋中学校区 約27,000人（15自治区から成り立つ）
3. クラブ
会員数：685名（2010年3月末日現在）
予算規模：約697万円
4. 連絡先
〒471-0019 愛知県豊田市高橋町3-100-1
TEL・FAX:0565-80-1195 ←「はいれ、いいクラブへGO！」
E-mail：tsc@hm7.aitai.ne.jp
URL：<http://www.hm7.aitai.ne.jp/~tsc/>

関連リンク：権田瞳氏プロフィール（ページ下） <http://www.japan-sports.or.jp/local/outline/adviser/22.html>